

II. 整形外科 管理指導医：安藤 渉

1. 研修目標

運動器の機能障害のメカニズムを理解し、その治療方法の多様性に触れることを目標とする。豊富な症例を体験し、特に、急性障害である四肢・脊柱の外傷の治療体系を理解することに努める。

2. 研修方略

研修内容

- 1) 2年次の選択診療科として研修をおこなう。
- 2) 簡単な診断法と処置法を修得し、整形外科的プライマリケアが行えることを目標とする。
- 3) 研修スケジュールは下記のとおりである。

	朝	午前	午後	夕方
月	整形外科カンファレンス	手術（スポーツ）	手術（外傷）	ハンドグループカンファレンス
火		手術（ハンド）	手術（ハンド）	(第3火曜) 脊椎グループカンファレンス
水		手術（関節）	手術（関節）	関節グループカンファレンス
木	整形外科カンファレンス	手術（脊椎）	手術（外傷）	
金	抄読会/予演会	手術（脊椎）	手術（スポーツ）	スポーツグループカンファレンス

・当院整形外科では、関節外科、脊椎外科、手の外科、スポーツ整形外科のグループがあり、それぞれ専門的な治療を行っている。また、その専門性を生かし、骨折等の外傷の治療を行う。

- ・月曜・木曜の朝に整形外科全体のカンファレンスに参加し、その週の手術の症例について学ぶ。
- ・日中は月～金まで手術に参加し、その場で一つ一つの症例について学ぶ。
- ・夕方には各グループがそれぞれカンファレンスを実施しているので、どのような症例が手術に至っているのかを詳しく学ぶことができる。
- ・金曜朝は抄読会・予演会へ参加する。

3. 行動目標

(1) 経験目標（経験すべき診察法・検査・手技）

- 1) 基本的な身体診察法
 - ① 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。
 - ② 神経学的診察ができ、記載できる。
- 2) 基本的な臨床検査
 - ① 単純 X 線検査
 - ② 造影 X 線検査
 - ③ X 線 CT 検査
 - ④ MRI 検査
 - ⑤ 核医学検査
- 3) 基本的手技
 - ① 圧迫止血法を実施できる。
 - ② 包帯法を実施できる。
 - ③ 注射法を実施できる。
 - ④ 採血法を実施できる。
 - ⑤ ドレーンチューブ類の管理ができる。
 - ⑥ 局所麻酔法を実施できる。
 - ⑦ 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
 - ⑧ 簡単な切開・排膿を実施できる。
 - ⑨ 皮膚縫合法を実施できる。

⑩ 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。

4) 基本的治療

- ① 骨・関節・筋肉・神経・脈管の解剖と生理の基本的知識の理解
- ② 四肢・関節・体幹の整形外科的診察とその所見の記載
- ③ 骨・関節・脊椎疾患の画像診断とその所見の記載
- ④ 局所麻酔、関節注射、切開等の基礎的臨床手技
- ⑤ 整形外科的感染症の処置と適切な抗生剤の使用法
- ⑥ 清潔操作の理解及び新鮮外傷のデブリドマンと皮膚処置
- ⑦ 骨折・関節脱臼の発生機序と合併症の理解
- ⑧ 変形治癒・偽関節・関節拘縮に対する治療法の理解
- ⑨ 脊椎症・脊椎炎・椎間板ヘルニア・靭帯骨化症など脊椎疾患の診断と治療法の理解
- ⑩ 脊椎疾患の MRI、CT、脊髄造影等の補助的診断法の意義と特徴についての理解
- ⑪ 変形性関節症や大腿骨頸部骨折等の下肢関節疾患の病因、病態と治療法についての理解
- ⑫ 手及び上肢の外傷（骨折、脱臼、神経・血管・腱損傷、）に対する適切な初期治療法の立案と施行
- ⑬ 膝半月・靭帯損傷・足関節部外傷などのスポーツ障害の発生機序と病態の理解と治療法の理解
- ⑭ 関節リウマチをはじめとする各種関節炎の病態と薬物治療法についての理解
- ⑮ 装具療法の適応と効果の理解、及び整形外科疾患手術後の基本的リハビリプログラムの作成

5) 医療記録

(2) 経験すべき症状・治療

- 1) 腰痛
- 2) 関節痛
- 3) 歩行障害
- 4) 四肢のしびれ
- 5) 外傷
- 6) 骨折
- 7) 関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷
- 8) 骨粗鬆症
- 9) 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）
- 10) 関節リウマチ

4. 評価

- 1) 研修医は、ローテート終了時に EPOC を用いて自己評価を行う。
- 2) ローテート終了時に、指導医及び看護師長（または相当職の看護師）が、EPOC を用いて「研修医評価票 I、II、III」により研修医を評価する。